

## 「2024年度ベトナム国家大学ハノイ校サマースクール派遣参加報告書」

京都大学総合人間学部3年 四方 春輝

## ①学習成果

このベトナム国家大学ハノイ校サマースクールプログラムは、私にとって、検討中の1年間の交換留学に向けた準備のようなものという位置づけであった。そのため、もともと留学に対する意欲はある程度持っていたが、このプログラムを通して、その思いがより一層強まったように思う。現地の価値観や文化に多く触れる機会が多く、留学でしか得ることのできない経験の存在をはっきりと感じ取ることが出来たからだ。例えば、現地で人と直接かかわることでは、日本とは全く異なる、その土地固有の文化や風土に触れることが出来ないものなのだと感じた。また、実際に留学先の授業に参加する機会もあり、交換留学をした際のイメージを具体化することも出来たように思う。今回のプログラムは2週間という短い期間であった。海外旅行よりも濃い経験が出来たという自負はあるが、長期間滞在することでは得られないものの存在にも気づかされた。1年間の交換留学を通してさらに人として成長出来たらと思う。

## ②海外での経験

まず真っ先に挙げられるのは、初めて海外で体調を崩したことである。バインミーでおなかを壊し、高熱により、土日の二日間をホテルの部屋で過ごすことになってしまったのだ。幸い、病院に行かずとも体調は戻り、無事に帰国することが出来た。この経験から、私は人との繋がり大切さを学んだ。高熱で寝込んでしまった際に、一緒にベトナムのホテルに泊まっていた京大生の仲間が、食べ物などを買ってきてくれたことが本当にありがたかったからである。その時に飲んだポカリスエットにどれだけ安心したことか。慣れない場所で体調を崩したからこそ、普段当たり前に感じていた、家族や友達との関係の貴重さを再認識することが出来たように思う。周りの人々への感謝の気持ちを忘れずに日々過ごしたいと思った。

## ③プログラム内容

最も印象に残っているものは、ベトナムの学生との共同発表である。私たちのグループは、「日越の大学生の国や将来に対する意識調査」というテーマで行った。私は、現在経済学などを中心に学んでおり、発展途上のベトナムと、先進国である日本との間でどのような違いがあるのかが気になったからである。研究方法としては、日越双方の学生に、日本財団の意識調査を参考にしたアンケートに答えてもらい、その結果を考察するという単純なものではあったが、その結果が非常に興味深かった。自国の将来に対して、ベトナムの学生は楽観的であり、日本の学生は悲観的に捉えていると、顕著にその違いが表れたからである。この背景まで、踏み込んで調べることは出来なかったものの、ベトナムに来ることでなんとなく感じていた両国の違いがデータ上にはっきりと表れていたことがとても印象的であった。他のグループの発表内容もとても興味深かった。ベトナムにて、現地の学生と日越を比較することで、日本への理解も深まったように思う。

## ④進路への影響について

ベトナムのハノイはとても良い街だった。台風11号による被害の痕跡もみられ、どうしても日本と比較するとインフラ面での課題は感じたが、それでもとても魅力のある場所だと思った。おなかを壊したものの、ベトナム料理がとても美味しく、野菜や果物が豊富だからだ。将来、就職し、ベトナムに駐在するような機会があれば喜んで手を挙げるだろう。ベトナム以外でも、海外で暮らすことで得ることでの知見や自信の存在を感じることが出来たので、積極的に飛び込んでいきたいと思うようになった。